

地学と切手

南極の

エレバス火山切手

P. Q.

南極大陸は地質構造の上から東部南極大陸と西部南極大陸に分けられ この境界にロス・ウェデル(Ross-Weddel)地溝帯がある。東部南極大陸は先カンブリア系を基盤とし ゴンドワナ大陸の一部であった安定地域であり 西部南極大陸はアンデス山脈からニュージーランドへと続く造山帯である。

1841年1月ロス(J. Clark Ross)の指揮する2隻の帆船が現在のロス海に入り ビクトリアランドと名付けて領有を宣言した。さらに奥に進んで氷の上に煙を噴いている火山を発見し 旗艦にちなんでエレバス(Erebus)と命名した。その後

現在までこのロス海は南極大陸表玄関の門標であり シャクルトン・アムンゼン・スコット・白瀬など 多くの探検家を迎え 火山の観察記録もいくつか公表されている。

エレバス火山(標高 4,023m)は正確に云えばロス島にある3つの火山のうちの一つである。基底直径約30kmの成層火山で海底からの高さは4,500mに達する。山頂は直径10~13kmの第1カルデラ(カルデラ縁の高さ約2,300m)があって 第2カルデラ(直径約3.2km 標高3,470m)内に標高3,720mの第3火口があり さらにその中に800×500m 深さ275mの火口があって噴煙が出ている。

ロスが発見した1841年には黒い噴煙が炎をともなって火口から途切れもなく立ち上っていたが それ以来たびたび活動が報告されている。1956年以降は噴気活動がつついているが降灰はない。1972年12月に2週間にわたって3人の火山学者が観察したが 山頂火口内に溶岩湖が認められ しばしばストロンボリ式の活動が起っていた。

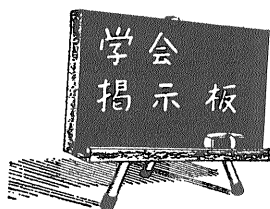
エレバス火山の岩石はアルカリ岩系に属し 粗面岩—ケニアイト(Kenyte)・橄欖石を含む響岩の1種—橄欖石玄武岩—玄武岩とケニアイトの順で活動している。

山頂付近には長さ2~3インチのアノソクレス結晶が大量に散在しているとのことである。

切手はニュージーランドの南極領である ロス属領の名の下に1957年1月 4種1組で発行されたもののうち2種である。

3P: 1841年のエレバス号とエレバス火山

8P: ロス属領(東径160°から西径150° 南緯60°以南の扇形の地域)の地図



東北大学理学部地質学古生物学教室
小高民夫 電話(0222)22-1800

・日本岩石鉱物特殊技術研究会

1. 昭和51年7月27日(火)~29日(木)
2. 第19回研究発表会(金属 非金属 構造地質 耐火物等の薄片 研磨片の作成に関する講演会)
3. 京大大学理学部地質学鉱物学教室(京都市左京区北白川追分町)
4. 日本岩石鉱物特殊技術研究会
5. 神奈川県川崎市高津区久本135 地質調査所内
日本岩石鉱物特殊技術研究会
電話(044)866-3171(内線211)

・日本鉱山地質学会・日本岩石鉱物鉱床学会・日本鉱物学会(三鉱学会)

1. 昭和51年10月19日(火)~20日(水)

・日本古生物学会

1. 昭和51年10月4日(月)
2. 日本古生物学会 118 回例会
3. 北海道大学理学部
札幌市北区北10条西8丁目
4. 日本古生物学会
5. 仙台市青葉山

見学会 10月21日(木)~22日(金)

2. 三鉱学会 昭和51年度秋期連合学術講演会
3. 鹿児島大学教養部
4. 上記三鉱学会
5. 鹿児島市郡元1-21-30 鹿児島大学教養部
浦島幸世 電話(0992)54-7141(内線989 990)

・国際会議

1. 1976年7月13日(火)~17日(土)
2. 基盤新構造に関する第2回国際会議
3. Delaware 大学 Delaware 州 アメリカ
4. NASA, USGS
5. Dr. Yngvar W. Isachsen, Geological Survey of New York, State Education Build., Albany, New York 12234

・第25回万国地質学会議

1. 昭和51年8月16日(月)~25日(水)
2. 25th International Geological Congress
3. シドニー(オーストラリア)
4. Australian Organization Committee
5. The Secretary General, 25th International Geological Congress, P. O. Box 1892, Canberra City, AGT 2601, AUSTRALIA

[注] 1. 開催年月 2. 会合名 3. 会場 4. 主催者
5. 連絡先(掲載順位は原稿到着順)